

令和7年度第2回 三鷹市環境保全審議会議事録（要旨）

開催日時：令和7年12月4日（木） 午後4時から5時
三鷹市教育センター3階 第三中研修室

<出席委員>

栗山委員、中山委員、松岡委員、山田委員、荒井委員、桑原委員、藤沼委員、利谷委員、原委員、おばた委員、半田委員、平井委員、塚狹委員、猿渡委員、近藤委員

<傍聴人>

2人

<次第>

- 1 委嘱状の交付(席上配付)
- 2 委員自己紹介
- 3 会長の選出
- 4 副会長の選出
- 5 副市長あいさつ
- 6 事務局より事務連絡
- 7 議事
 - (1) 市内温室効果ガス排出量のさらなる削減に向けて
 - (2) その他

<配付資料>

資料1 三鷹市温室効果ガス総排出量等実態調査報告書（令和6年度実績）

<議事内容（要旨）>

- 1 市内温室効果ガス排出量のさらなる削減に向けて
 - ◇環境政策課長：資料1をもとに、市内の温室効果ガス排出量の状況について説明。
 - ◆会 長：温室効果ガスの削減方法は様々あるが、新しい委員の方からアイデアやご意見はあるか。
 - ◆委員1：2030年の目標までに何が出来るか。マンパワーの問題がある他、今後自然災害が起こるかもしれない。普段働いている中で環境問題を意識できていない部分もある。
三鷹市の道路は綺麗だがコンクリートが多いため、緑化を進めるのが良い。
また、花壇を整備している市民もいる。全市民向けの緑地化の啓発があれば意識を変えられるのではないかと思う。
 - ◆委員2：三鷹市内は自転車の利用者が多いが、道が狭く、駅前などは駐輪場が少ない。自転車を安全に利用し易い環境整備を進めると、車から自転車への移動手段の転換が進み、車由来の温室効果ガスが削減されるのではないかと思う。
 - ◆委員3：中央自動車道の三鷹料金所では車の渋滞が多い。今後、北野のジャンクションが開通し

て交通量が増えると、車の排気ガスの影響で夏場に光化学スモッグの状況が悪化するのではないかと不安を感じている。抜本対策が必要ではないかと考えている。

◆委員 4：2030 年までに温室効果ガス排出量 50%削減の目標を達成するためのシナリオをどのように考えているか。

◇環境政策課長：三鷹市全域は、追加的施策に加え、技術革新も含めて 50%削減を目指している。そのため、詳細なシナリオは描けてはいないが、市の事務事業では、公共施設で使用している電気を再生可能エネルギー由来等の二酸化炭素を排出しない電気に変えていくとかなり削減できる。また、太陽光発電設備を設置して創エネと省エネを行っていく。この他に、市独自の環境マネジメントシステムである「みたか E-Smart」の取り組みの中で、職員の意識啓発を行うなど、一つひとつ積み上げていく必要がある。

◆委員 5：区域施策編の二酸化炭素排出量算定は何を根拠に算定されているか。

◇環境政策課長：公開されている様々な統計データを基に、都内各自治体共通の手法で算定されている。

◆委員 5：緑地の代わりに太陽光発電設備を設置している地域もあるが、三鷹市はどうか。

◇環境政策課長：三鷹市は住宅街であり、建物の屋根に太陽光発電設備を設置することを推進している。

◆委員 6：今回、委員となり、市で新エネルギー・省エネルギー機器を設置した市民に助成金を出しているということを知った。そのような情報を、「LINE」や「Instagram」などの SNS を使用して情報発信すると、より市民に広がるのではないかと思う。

◇生活環境部長：市からのお知らせについて、できるだけポップな、親しみやすいものにする必要性を認識している。また、地域によっては、商店会主導で、「グリーンインフラ 100 プロジェクト」という緑豊かなまち並みにする取り組みがあり、市も協働している。このような、市民活動を交えながら、横のつながりで広げていくことも大切であると考えている。

◆委員 5：夏場に電気を使用しないようにという、高齢者がクーラーを使用しないことに繋がるため、啓発の仕方を注意すべきである。

◆委員 7：市の補助制度について、一般の市民の方に認知されていない状況がある。世代によって見る媒体は異なるが、市の公式 LINE でお知らせするなど周知の仕方についても目配りをして欲しい。

また、補助制度の予算の上限に達したから交付できないといったことがないよう、必要としている市民の皆様に届くようにして欲しい。

◇環境政策課長：補助制度の予算は、市民の皆様に切れ目なく利用いただけるよう取り組んでいきたい。

2 その他 特になし